

その1 4月から大分市子育てクーポン券が使用される対象がロタワクチンとおたふくかぜワクチンにも広がります。

インフルエンザワクチンに加え、おたふくかぜワクチンやロタウイルスワクチンにも対象が広がります。ロタウイルスワクチンは大変有効性の高いワクチンです。あくまで私の経験ですが、大分子ども病院時代の4年間の病棟医長時代に経験したロタウイルス接種児のロタウイルス腸炎による入院例わずか1例...それもおたふくかぜによる脱水で入院ではなく、熱性けいれん(継承下痢けいれんではなく)で観察目的入院だけでした。かかってもしばらく下痢で済み吐き止めや経口補水療法で十分ということです。しかし大変高価で、わずか1.5mL-2mLの液量で1万から1万5千円程度(ビンテージワインも真っ青!)、それを2回か3回接種なので...とても子育てクーポン券だけでは足が出ませんが、ロタウイルス腸炎はお子さんにとってはノロウイルス腸炎と比べようもないくらい悪いので、これを機会に是非接種しておきましょう。

その2 Google インディアビューのサービスを開始しました(写真2)。

2月から当院のホームページに重大な変化があったのはお気づきでしょうか?人知れず、ですが...「当院について」のコーナーに、クリニックの内部が360度パノラマ画像でわかるGoogleのインディアビューをはめ込みました。当院の院内の状況、医療設備、各部屋の様子がストリートビューのようにわかるサービスです。まだ当院を利用されていない方も前もって院内の状況や当院の医療設備がわかるとイメージが湧きやすいかなと考え、導入致しました。またタブレットでも見れますので、このようなサービスに強いお子さんたちにも遊んでいただけたら幸いです。是非一度覗いてみてください。

【検索キーワード (かみぞのきッズ 当院について) ウェブサイトアドレス <http://kamizono-kids.com/about/>】

その3 少し早いけど...5月5日は当院の休日診療当番日です

5月5日のこどもの日は祝日ですが、当院は初めての休日当番日となっております。

○診療受付は8:30~12:00、14:00~17:00となります。

○発熱や嘔吐・下痢、ぜんそく発作などのこどもの内科系の急患診療のみとさせていただきます、外傷や異物誤飲などの処置が必要な患者さんに関しましては、やはり小児救急支援病院である大分子ども病院への受診をお勧めいたします。

○院外処方が可能です。2日分程度とさせていただきます、継続的にかかりつけの先生にもみていただくことをお勧めいたします。

○アレルギー相談は時間的にできないので、通常の診療に予約をお願いいたします。

(写真2)



●編集後記

早いもので3月も半ばとなってしまいました...いつの間にか冬季オリンピックが終わって、パラリンピックや相撲の春場所が始まってしまってます。光陰矢の如し、春眠暁を覚えず~税金や補助金関係の書類の提出、レセプトの請求書き直しなどなど、言い訳になってしまいますが、またまた発刊が遅れてしまいました。先月号のインフルエンザの話題もですが、新聞を出したときには旬は過ぎていた、というパターン。花粉にはもちょっとがんばって飛びつけてくれ~と、不謹慎なことを考えている今日この頃です。

受付時間	月	火	水	木	金	土
9時~12時	●	—	●	●	●	●
14時~18時	●	—	●	●	●	●

休診日/火曜・日祝日

9時より早く来られた方も、診療準備完了次第、順次診療してます。また夕方6時ぎりぎりまで受付しております。お気軽に相談ください。

インターネット予約が可能です

かみぞのキッズ よやく | Q  
<http://kamizono-kids.com>

ホームページ  
QRコードは  
こちら



WEB予約  
QRコードは  
こちら



〒870-0822

大分県大分市大道町4-5-27 第5ブンゴヤビル2F

TEL:097-529-8833



かみぞのキッズクリニック

シックキッズニュース

2018年3月号(No.10)

3月号、大幅に遅れまして申し訳ありません。旬をすぎないよう、できるだけ新鮮な医療情報を早くお伝えできるよう心がけていたのですが...。今月は、これを書いている時が最盛期で、画期的な舌下免疫療法で話題の「スギ花粉症」のお話です。

●今月のフォーカス

スギ花粉症

○スギ花粉症とは?

2月中旬過ぎて、インフルエンザの患者さんがぱったり減りました。代わりに2月後半から相談を受けるのが、目がかゆい、鼻がむずむず、くしゃみ鼻水が止まらない...そう、スギ花粉症です。日本でのみ特别多く、なんと2500万人がこれに悩まされているといわれています。国民病、といわれるゆえんです。公式には1964年、「花粉症の父」といわれている斎藤洋三博士が、「栃木日光地方におけるスギ花粉症の発見」という論文が最初です。日本で1960年過ぎからスギ花粉症が急に増えてきた原因は、農林水産省が推奨してきた大規模スギ植林による、といわれています。

○スギ花粉症と風邪の違いは? (表1をご参照下さい)

症状が、スギ花粉飛散時期に一致して流行するライノウイルス感染症にともなう上気道炎症状、つまり、微熱、鼻水、せきがだらだら続く風邪とそっくりなので、皆様も、風邪が長引いているのか、花粉症か、見分けがつけにくいですが、よくみるとその区別意外に簡単です。その主な違いを表1にまとめました。要するに、花粉症は、透明な水っぽながだらで

表1. 花粉症と風邪の違い

	花粉症	ウイルス感染による風邪
罹患年齢	小学生以上の年齢者	ベビーから幼児くらいまで
家族	しばしば遺伝する	数日間で順番にかかっていく
鼻水の性状	水はなで透明	べたべたで白色
熱	なし	微熱から時に高熱
くしゃみ	しばしば	まれ
目のかゆみなどのがんじょう	しばしば	目やにくらいでまれ
罹患期間	飛散時期中なので長い	多くは1週間前後

ティッシュが手放せない、目がかゆく、こすりつけるので目のふちや眼球も赤い、鼻もつまり、鼻声で全体的にぼーっとした感じになっている小学生以上の方をイメージしたらいいと思います。熱が出ないのも特徴的です。スギ花粉の飛散量や抗原回避の努力によって、症状が比較的コントロールできることも診断の助けになります。でも、本人が一番知っていて、ご本人が「これは花粉症です」、といったら、だいたい花粉症です。

○スギ花粉症の検査は? (次のページ表2をご参照ください)

これがスギ花粉によるアレルギーであることは何十年も前から知られているので、スギ花粉に感作されていることを証明すれば診断ができます。鼻暴露試験が一番確実ですが、特殊な装置や薬剤が必要で、一部の大病院や耳鼻科専門病院しかやられていません。

一般にやられているのは、流血中に含まれるスギ花粉に反応する抗体というたんぱく質の濃度を測定する方法です。採血なので痛みが伴い、なかなか小児科ではやりにくい検査です。しかも検査料が高く、例えばスギ、ダニ、猫の毛わずか3項目しかやらなかったとしても、保険を使っても約1500円のコストがかかります。

当院では採血を嫌がるお子さん、とくに3歳未満の乳幼児で採血困難なお子さんには、皮膚テスト(プリックテスト)を行っています。スギやダニ、猫の毛から抽出したエキスを腕の上腕内側に1滴垂らして、針金で抑えて15分後の膨疹の大きさををはかるだけです。出血

中面につづきます



もなく痛みもない、非侵襲性の検査です。血液中の抗体をみるのではなく、実際に花粉が体に入ったらどういった体の反応があるかを再現できるので、診断の有用性は非常に高いです。検査代もダニ、スギ、猫の毛、それに陽性コントロールのヒスタミンをいれて4項目した場合、健康保険使用して3割負担でわずか480円です。安く、痛くなく、危険もほとんどなく、結果も一番信頼できる。いいことづくめですが、問題が一つあり、すでに抗アレルギー薬を内服していた場合、反応が弱く出る欠点があります。薬が本来ならば出る反応を抑えてしまい、うその陰性になってしまうのです。症状が出て検査希望の方の多くは、すでに別の病院などで薬を処方され飲んできているので、これは大きな問題となります。

そこで、当院では、抗アレルギー薬を採血検査の場合は、血液1滴、約20マイクロリッターという微量な血液で、スギ、ダニ、猫の毛の3種類の抗体を20分という短時間で簡便に検出できる、イムファストチェックというキットを使っています。抗アレルギー剤内服や体調にも影響されませんが、検査代は通常採血の場合と同じ1500円前後です。陰性が陽性くらいしかわかりませんが、スギ花粉症の診断にはそれで十分で、その日のうちに結果がわかることもあり、またインフルエンザの検査キットなどで線が出た出なかったというのは患者さんにもなじみがありわかりやすいので、大変好評です。

○有効な治療法は？

1. スギ花粉の回避と洗浄による除去
2. 抗ヒスタミン剤内服。あるいはロイコトリエン受容体拮抗剤などの抗アレルギー剤の内服や点眼薬、ステロイド点鼻薬との併用療法
3. アレルゲン免疫療法

スギ花粉症はアレルギーなので、抗原回避と除去が基本であることは言うまでもありません。つまり、スギ花粉のない日本以外のところへしばらく移住するか、それができない場合は屋外にでないことです。そんなことはわかりきっているけど、仕事も学校もあるので、現実的ではないです。マスクや花粉カット用の眼鏡で花粉の花や目への侵入や付着を予防することだけでも、症状を和らげる効果はあると思います。ネットで花粉、眼鏡で調べるとぞろぞろ出てきますが、好みやお財布事情で1つ用意できればと思います。図のZoffのAir Visorのように、ディズニージョーンなどキッズ用もそろえているのもあるようです(写真1)。

よく処方される薬ですが、こどもの場合は点鼻薬が嫌がられること、内服薬がなぜか好まれることがあり、鼻水止めの作用がある抗ヒスタミン薬が中心となります。2か月程度の長期内服になることもありますので、眠気やのどの渇きなどの副作用が少ないものが処方されます。抗ヒスタミン薬には、眠気を自覚していなくても、集中力や判断力、作業能力が落ちる現象が起きることがあります。これをインペアド・パフォーマンス(鈍脳)といいます。正直、小児科医はベビーを相手にすることが多く、親御さんの中には、薬で寝てくれたほうが助かる〜といわれる方もおり、また長期内服可能な安全性の高い第2世代の鼻水止めの多くが7歳以上、かつ慢性疾患のアレルギー性鼻炎にしか保険診療で処方認められていないため(副作用の少ないために高価になってしまいうい薬を長期間大量に処方されると医療費高騰を招いてしまう)、あえて昔からある第一世代の鼻水止めを出すことが多いです。そのため、日本は「鎮静性抗ヒスタミン薬の天国」と形容されていることがあるそうです(ウィキペディアより)。耳が痛い話です。しかし、運転手やパイロットはもちろん、仕事や勉強などの日常生活で様々な不都合が出てくることもあるので、特に長期に出される場合の内服薬の選択は大事です。当院では、患者さんの状況に応じて、たくさんの中からある抗ヒスタミン剤でもっとも適しているものを選択して処方するように心がけています。

また、抗ヒスタミン薬だけではなく、鼻づまりに効果を示すロイコトリエン受容体拮抗剤や、ステロイド点鼻薬の併用もお勧めしています。ロイコトリエン受容体拮抗剤は、ぜんそくの乳幼児で頻用される長期薬なので、なじみがあるかと思えます。ぜんそくの気管支粘膜のむくみだけでなく、鼻粘膜のむくみもとれることを利用しています。

ステロイド点鼻薬ですが、お子さんは鼻にもものを入れられるのを極端に嫌うので、処方を受ける機会は少ないのが現状です。がしかし、実は、花粉症のくしゃみ・はなみず・はなづまりの鼻の3



(写真1)



大症状すべてにもっとも効果を示すのは、直接鼻に到達して効果を示し、強力な抗炎症効果・抗アレルギー効果を示すステロイド吸入剤です。しかも血液内に入っていき量は無視できるほどですので、通常量では内服の抗ヒスタミン剤のような副作用の心配はありません。また、最近では、刺激性の添加物を含まないパウダータイプのもの、成分に含まれておりセルロース鼻汁とまざってセルロース膜を形成、粘膜を被覆して保護するもの、霧状になって刺激が少ないもの、回数も風呂上り1回でいいものなどいろいろいいものが出ています。やはり花粉症の薬物療法の基本はステロイド点鼻薬です。

鼻だけでなく、目とその周りのかゆみや腫れにもなやまされま。抗アレルギー剤の点眼も大事になります。最近ではほとんど沁みなくて小さなお子さんにも使いやすく効果の高い点眼薬も処方されます。春季カタルという最重症のアレルギー性結膜炎の段階になれば、ステロイドや免疫抑制剤の点眼薬の使用も考慮しないといけないのですが、それらの強力な点眼薬は、特にこどもでは知らないうちに緑内障や細菌性全眼炎というおそろしい合併症を引き起こすことがあります。眼圧が測定でき、詳しい眼球的診察のできる眼科専門医による処方望ましいと考えます。

○スギ舌下免疫療法・・・アレルゲン免疫療法について

(表3をご参照ください)

おそらく今後中心になってゆく治療法は、アレルゲン免疫療法でしょう。以前はスギの減感作療法と称して、スギ花粉からアレルギーをおこす成分を抽出したエキスを注射していました。この皮下免疫療法は、もちろん今でも行っておりますが、最初の25回は毎週のように受診して徐々に濃度をあげてゆかねばならず、またアレルギーを起こす成分を注射するため、重症なアレルギー症状、つまりアナフィラキシーを起こす可能性があるため、全身管理に対応できない小規模医院ではわざわざやろうとするとところがなく、まったくというほど普及していませんでした。

2014年に、鳥居製薬からシダトレンというスギ花粉舌下液が発売、保険収載されました。これにより、舌下免疫療法が可能となりました。1日1回、約3年間ほど、舌下液をなめ続けば、これまでの皮下免疫療法と同レベルの効果が得られるとのこと。日本で最も

多くシダトレンを処方されている三重県の湯田先生の調査によれば、確かに1年目から効果をあらわす人もいますが、2年目のほうがより有意に効果を実感するとのこと。しかも、アレルゲン免疫療法にはおまけがついており、それは、スギ以外にハンノキ、シラカンバ、カモガヤ・ハルガヤ、ヨモギ・ブタクサなど新たな種類の花に対する感作が予防できる可能性が示唆されています。それらの花粉に感作されてしまうと、果物を食べたら口がイガイガしたり腫れたりして食べられなくなるという、いわゆる口腔アレルギー症候群という状態になって、食べられるものがどんどんへってゆく事態になりかねません。まだ研究的な段階ですが、花粉症をアレルゲン免疫療法でなおすと体質が変わってアレルギーの進行が止まるのではないかという仮説のもと、実際にシラカンバやハンノキの花の花粉の治療エキスを輸入

して皮下免疫療法でそれら花粉症を治療。間接的に果物に対する口腔アレルギー症候群を治そうと取り組まれている施設もあります。

舌下療法はスギ花粉飛散期が終了してから開始するのですが、のど元過ぎれば熱さ忘れる、ではないですが、そのころには症状がないので、勧められないとなかなかお金を出してまで3年間もやろうとは思いません。7割を超える有効率があり、他のどんな抗アレルギー剤よりも断然有効性は高いのですが、どうしても2割程度は3年やっても効果が乏しい人もいます。しかし今年の初夏には、いままでの舌下液にくわえ、シダキュアという舌下錠剤が発売されることが決定、同時にこれまで12歳以上の年齢制限がありました。この年齢制限が取れる見通しとなりました。すでにダニ舌下錠のミティキュアは、この2月から年齢制限が取れました。アレルゲン免疫療法は一般的には低年齢層がより有効性が高いといわれていますが、より有効性の高い年少児からスタートできることになりました。今、スギ花粉症に苦しんでいる方、口の中に1分間舌下錠を保持できる方なら老若男女を問わずどなたでもできるようになります。今年の初夏あたりから初めてみてはいかがでしょうか？特に3年後に中学・高校・大学受験を控えている小中高生。受験の時期がちょうどスギ花粉症の時期と被ります。花粉で勉強や試験の時に悩まなくて済むように、あるいはインペアドパフォーマンスをきたす鼻水止めの薬の内服を飲まなくても済むように、いまから始めてみるのはいかがでしょうか？



●おまけ● スギ花粉症だけではない。

PM2.5や黄砂によるいわゆる黄砂アレルギーとは？

花粉症とちょうど同じ時期に大陸から飛んでくる黄砂やPM2.5などの大気浮遊粒子状物質です。これはスギと違い、暴露されただれでもある程度、鼻・眼症状が出ます。症状は花粉症そっくりです。それどころか黄砂アレルギーはぜんそく発作を引き起こし、湿疹を悪化させることは知られていますし、それどころか脳梗塞の誘因ではないかと考えている学者もいるようです。砂がアレルギーを引き起こすのではなく、砂に付着している物質にアレルギーや炎症を引き起こす毒性のある物質が付着しており、それによる健康被害です。スギ花粉症と違い、アレルゲン免疫療法の開発は困難で、有効な対処法は、マスクやゴーグルなどの抗原暴露回避と洗浄による黄砂の除去、抗アレルギー剤を使用して対処療法以外ありません。

表2. スギ・ダニ・猫の毛の種類のアレルギー検査の比較

検査項目	採血量	結果が出るまでの時間	検査の費用(健康保険3割負担の場合)	備考
一般的な採血検査(イムノキャップ・アラスタットなど)	1mL以上	3-7日	1500円	定額法(イムノキャップ法やアラスタット法など同一の方法で行う場合は時間差を補っての経路観察可能)
イムファストJL	0.02mL	20分	1500円	定額法(出た時の寸方で感作の強さを判定)、一言入札
皮膚テスト(プリックテスト)	なし	15分	480円	定額法(出た即時の大きさで感作の強さを判定)、抗アレルギー剤内服中は検査結果が信用できない

表3. 比較が困難な治療法(3割負担)を使用した場合のシダトレン療法のコストと効果の比較

治療法	薬剤名	月の薬剤料	再診料	ひと月の医療費	年度の医療費	3年間の医療費	一般の花粉症治療法(標準)に比べての標準的なコスト？	効果
シダトレン(アレルゲン舌下療法)	シダトレン(1パック¥102)	¥900	¥740	¥1,640	¥19,680	¥59,040	11年分	◎
スギ花粉舌下免疫療法(3割)	治療用エキスを(40回¥4,320)	¥0	¥600	療費の増量¥2,000(4割)、維持費¥900	初年度¥18,000、以後¥6,000	¥27,000	5年分	◎
一般の花粉症治療	アレグラ(内服1回¥84) オゾンテラス(点眼1回¥1,820) 1.5%ノルメドリン(点眼1回¥187)	¥1,810	¥740 (点眼¥1,060)	初診2月¥2,660 再診2月¥2,560	¥6,410	¥16,250	2月分は一年分より多いが、174日おこなう必要	◎